

## BSJapanext

# 「テレビ通販の雄」が 展開する 放送サービスの新たな形



### 田道 祐樹

株式会社ジャパネット  
ブロードキャスティング  
代表取締役社長

### 「自前」のコンテンツ制作に 強いこだわり

**音** 自社で映像コンテンツを制作していたとはいえ、BS放送局の運営は全く異なる仕事内容です。社長となった感想から聞かせてください。

**田道** 異動前の通販担当役員と比べると、厳密なタスクこそ異なりますが、物事の順序や進め方に大きな違いはありません。良質な商品を取りそろえて、それをお客様に広めていくことは、面白い番組を用意して、それを多くの皆様に楽しんでいただけるよう広めていくという思考のステップと同じです。

**音** 同時スタートした3局がそれぞれに特色を持つ中、BSJapanextはとりわけ異色のチャンネルだと感じています。開局から現在までの手ごたえはどうですか。

**田道** コンテンツについては、制作側としても「楽しく」取り組めていますが、いかんせん、開局そのものを含めた認知度が不足しています。私たち単独での取り組みはもちろん、新局が3つ立ち上がったという事実をもっと広げていかなければならないでしょう。

**音** 通販の会社というイメージが強く持たれる中、独自コンテンツ制作にかなり注力している印象ですが、コンテンツ制作についてどのようにお考えですか。

**田道** 大前提として「通販番組は30%まで」という総務省との約束がありますが、それ以上に「テレビ局をやるからにはやりたいことをやる」という考えを強く持っています。せっかくテレビ局をつくったのに通販ばかり流してい

ては、各局で私たちの通販を流していただいている現在と大差ありませんから。やりたいことを自前でやり、そのノウハウを蓄積していくことは事業展開する上で重視する私たちの社風です。テレビ局を持った意義を深めるために、自前のコンテンツ制作には今後もこだわっていきます。

**音** 従来のショッピング系チャンネルとは大きく異なる取り組みです。掲げるミッションは何ですか。

**田道** 地域創生に本気で取り組んでいきたいと考えています。私たちの番組を通して、視聴された方が現地に行ったり、その地域の商品に興味を持ったりといった広がりをつくれれば、地域も潤うし、私たちの収益にもつながります。また、スポーツの地域振興にも力を入れており、競技を知り、みんなで応援することの楽しさを多くの人に伝えていきたい。私たちがお届けする番組を通じて、世の中に埋もれたすばらしいモノを視聴者につなぎ、各地域に元気を届けることをモットーに掲げています。

**音** 全国波であるBS放送で「地域創生」に取り組む狙いは何ですか。

**田道** 全国に向けて情報発信ができるBS放送でこそ可能な規模、スピード感を出せる。地元ではよく知られていても、全国では知名度の低い商品や名所を私たちのチャンネルで取り上げることで全国発信というハードルを越えることができるわけです。その圧倒的規模感は、地域局には出せないものもあって考えています。

### 通販の「顧客」も生かして 認知度向上へ

**音** ターゲットとなる視聴者層は。

**田道** BS放送が従来持っている高い年齢層、あるいは地上波で注目されているコア視聴者層などがありますが、基本的には「世代を問わず多くの皆さまに視聴してほしい」というスタンスです。そのためにはまず、認知度を向上させていかなければなりません。

**音** 認知度向上の手段について、現時点での対策は。

**田道** 私たちには非常に多くの通販顧客がいらっしゃる